



## 今年の夏は猛暑！！

### 暑熱対策は大丈夫ですか？

今年の梅雨は去年より2週間以上も早く明け、連日、猛暑が続いています。家畜にとっては暑熱ストレスは重大な障害要因となり、畜産農家にとっては経営打撃を与えます。暑熱対策を十分に行い、繁殖・肥育・泌乳成績に影響の無きよう、今一度、飼養環境の点検を行いましょ。

#### 畜舎の対策

- 直射日光を避ける

畜舎の周囲に、日陰林を設けたり、ヨシズを張るなどして日差しを避ける。

- 換 気：扇風機やダクト送風により畜舎内の空気を外に出す。

- その他

直射日光による温度上昇を抑えるため、屋根への石灰乳の塗布または散水。

#### 家畜への対策

- 給 餌

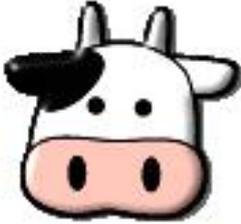
嗜好性のある良質なものをできるだけ涼しい時間帯に与える。

- 給水及び散水：新鮮な水をいつでも飲めるようにしておく。

動物も湿度が上がれば、体感温度は上がります。散水や細霧を行

う場合は湿度計を設置するなど体温調節に工夫が必要です。

- 飼養密度：余裕ある飼養密度で家畜の疾病による損耗予防。
- その他：交配時期を涼しい時間に行うことなど。



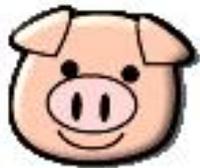
乳牛では暑熱ストレスにより、病気に対する抵抗力が低下していて、乳房炎に罹りやすい状態にあります。体力の低下予防にも、ビタミンの豊富な飼養を給与すると良いでしょう。

夏場に分娩、または泌乳期をピークに迎えるものは、周産期疾病を起こすものが見られます。対策としては分娩前から飼料添加物と併せて高単位のビタミン剤、低Ca血症予防にもミネラルの給与が必要です。またアシドーシス(酸性体質)になっているものは重曹の投与も効果的です。



和牛は乳牛に比べ暑熱ストレスは少ないと言われていますが、とりわけ繁殖牛においては、濃厚飼料多給により繁殖成績の低下を招く場合があります。暑さで疲れた胃腸などの回復に良質な粗飼料を与えることで体質改善を行い繁殖成績を改善しましょう。

夏場に分娩、種付けを迎えるものは、周産期疾病などを起こすものが見られます。対策としては分娩前から飼料添加物と併せて、マグネシウムやカルシウムなどのミネラルの給与が必要です。



豚は、他の家畜と違い汗腺の発達が遅れていて、体温調節が弱いとされています。とりわけ繁殖豚において、分娩房の風通しに気を遣い、繁殖性の低下を招かない飼養管理に気をつけましょう。

夏場は遮光ネットによる直射日光の遮断や、冷水の頸部滴下などの工夫も必要です。また、豚の積み込みや移動などは朝か夕方涼しい時間帯が暑熱ストレスを軽減させます。食べ残した飼料は、まめに除去し、衛生管理に気をつけ、新鮮な水は切らすことのないようにします。繁殖成績が低下し始めたらニンニクやビタミンの投与、青刈り粗飼料の給与も効果的です。



鶏舎内および鶏舎周囲の整理整頓を行い、風の通りを良くしましょう。遮光ネットや防鳥ネットへの蜘蛛の巣など目詰まり除去も重要です。新鮮な水は切らすことがないように行い、給餌は朝夕の涼しい時間に行ってください。

何よりも、畜舎、家畜のこまめな観察が重要です。

熊本県城南家畜保健衛生所

電話 0966-22-3814

熊本県城南地区家畜自衛防疫促進協議会

電話 0966-28-3234